

年頭挨拶

退職後も引き続き教弘と共に

公益財団法人 日本教育公務員弘済会長野支部 支部長 皆川 宏



明けましておめでとうございます。（公財）日教弘長野支部の事業推進のために、本年も変わらぬご支援をよろしく申し上げます。

さて、本年度の退職予定者説明会は、昨年同様、10・11月、県内10会場で実施したところ、定年退職者の半数を超える340人余の教職員の皆さんにご参加いただきました。参加者の皆さんからは、「年金支給の時期や手続きのこと、再就職する場合としない場合の保険加入のこと、確定申告の仕方など、不安が大分解消した」「退職後の生活資金準備や資産管理の話など、日頃聞く機会がなかっただけに参考になった」などの感想が寄せられました。この3月に退職される皆さんにとって、この説明会が、第二の人生を安心して踏み出すための一助になったものと自負しているところです。

ところで、退職予定の皆さんには、引き続き、教弘の会員として継続加入をお願いしたいと思います。当支部では、「最終受益者は子どもたちである」という理念に基づき、奨学・研究助成などの教育振興事業と教職員の生活向上のための福祉事業（各種祝金・宿泊補助・人間ドック補助など）の拡充を図ってきていますが、退職後も会員として利用できる事業もたくさんあります。

ご存知のように、これらの事業の原資は、主として「教弘保険」から生み出される配当金等によって賄われています。皆さんが引き続き「教弘保険」に加入されることで、本人と家族を守るだけでなく、上記のように長野県の教育振興を支えることにもなります。教育関係者のみの集団契約による割安な保険料と教育振興事業への貢献という特徴を持った「教弘保険」へのご理解とご協力を改めてお願いするところではあります。

残り数カ月となりました教職生活を、健康で全うされますようご祈念申し上げ挨拶とします。

助成金給付報告

＜ボランティア活動助成金＞

申請学校数…303校 1校…10,000円を給付

2017年度ボランティア活動助成金の申請は2017年11月末日をもって締め切りました。助成金10,000円は、当会参事が順次学校へお届けしています。今後の活動資金等としてお役立て下さい。

『2018信州総文祭』に向けて



長野教弘は、2018年に開催される「第42回全国高等学校総合文化祭 長野大会」(愛称 2018信州総文祭)を応援しています。今年度は、宮城県にて第41回大会(2017みやぎ総文)が7月31日から8月4日の日程で開催されました。

長野教弘は、信州総文祭に向けて先生方の視察費用を援助しました。視察に行かれた先生方の報告をご紹介します。

文芸部門でコミュニケーション能力を鍛える

長野県高等学校文化連盟文芸専門部副部長
中野西高等学校長 飯島由美

「2018信州総文祭」の前年にあたる今年度、本大会で部門の中核を担う生徒と職員が複数参加し、みやぎ総文における文芸部門の運営方法と内容を実地で学びました。

文芸部門の大会は他の多くの部門とは異なり、出場校が入り代わり立ち代わり演奏などを披露する形ではなく、初日には開催県の文学などにまつわる地を巡って作品を作り、各県対抗の文芸クイズで交流を深め、俳句、短歌、詩、散文、部誌の5つの分科会に分かれ、講師の指導を仰ぎつつ、事前提出作品などについて話し合い、発表し合い、講評し合う、あるいは、作品を完成させるといったワークショップを2日間かけて行います。

文学作品にまつわるご当地クイズは、作品の一節の文字の並べ替えなどで正解までのタイムを都道府県対抗で競っていましたが、(若者に人気の作家の作品を読んでいな

い)「素人」視察者には難解で、正解など見当がつかない世界でした。恐るべし、高校生。

文芸部門は、本来なら独りで静かに文学の世界に浸りたいタイプの、他者とのコミュニケーションが得意ではないと思われる生徒たちが「同好の士」を得て、思いが通じることにより喜びを感じ、思いを語り、評価し合うことが楽しいと気づくことができる大会です。

2日半の日程の中で、同都道府県参加者同士はもとより、他の都道府県参加者と協働し、語り合うことにより、考え、理解し、発信し、表現するコミュニケーション能力が大いに鍛えられる素晴らしい大会でした。そして、みやぎ総文祭文芸部門の成功を引き継げる大会になるよう、来年に向けて準備すべきことが見えた視察となりました。

吟詠剣詩舞専門部の発表から

長野県高等学校文化連盟吟詠剣詩舞専門部会長
須坂東高等学校長 池田義則

「2018信州総文祭」では須坂市のメセナホールが、吟詠剣詩舞専門部の開催会場と決定されております。吟詠剣詩舞専門部は県内高等学校にクラブとしては存在しておりません。学校以外の道場や教室で稽古を積み上げてまいりました少数精鋭の組織です。専門部を支えるスタッフも吟詠剣詩舞にはおりませんので、舞台運営に詳しい演劇専門部のスタッフに協力していただき、全国大会に向けて準備を進めるために「みやぎ総文2017」を視察させていただきました。

吟詠剣詩舞専門部は8月3日に宮城県美里町文化ホールにて開催されました。ブランド米「ひとめぼれ」の産地です。美里町にも広大な水田が広がっておりました。マスコットキャラクターは伊達政宗のかぶとをつけた「むすび丸」でした。

前日には出場する25団体のリハーサルが行われ、終了後は生徒交流会が行われました。リハーサルと生徒交流会は生徒実行委員会が司会進行を担当していました。吟詠剣詩舞とはどのようなものなのか、また、舞台転換はどのように行われるのかをつぶさに把握するため、リハーサルを丁寧に見させていただきました。吟詠と剣詩舞だけではなく、書道や華道と吟詠剣詩舞を組み合わせた団体もあり、舞台転換に時間を要することが理解できました。またリハーサルと並行して、理事会・専門部会も行われました。

本番の舞台は、吟詠と剣詩舞を組み合わせた発表が多く見られ、吟ずる声の伸びやかさ、力強さ、さらに、舞の正確さ、同調性などによって観衆への伝わり方がまったく違うことが実感できました。書道や華道とコラボレーションしている団体は、書道の大きな台紙や華道のテーブル、花などのセットが必要でした。長野県の運営スタッフの先生方とは、演劇の舞台転換のノウハウを生かして、短時間で舞台転換させるアイデアを出しながら発表を見させていただきました。



長野県は吟詠のみでの発表です。まず長野東高校の小山瑞穂さんが最初に登場し、華やかな吟詠で観衆をストーリーに引き込みました。続いて登場した須坂東高校の小山裕武君は力強い発表を披露しました。そして、最後に登場した、須坂創成高校の小口愛菜さん・葉奈さん姉妹は二人の声質が似ていることから、重唱や輪唱を取り入れるなど独創性豊かな発表をすることができました。吟詠のみの発表でしたが、長野県は講師の方からも高い評価を頂きました。

閉会式では、次年度開催県として大会テーマ、マスコットキャラクター等に触れながら信州総文祭について広報させていただきました。視察を終えることができました。

**応募締切
間近!!**

2017年度 教育研究助成事業(共催:信濃毎日新聞社)のお知らせ

1. 応募要項

(1) 学校研究助成の部

- ①対 象 長野県内の幼・小・中・高等学校・特別支援諸学校等における学校単位、及び郡市を単位とする少数職種の教育研究の実践論文に対し助成金を給付。
- ②助成金額 予算の範囲内
- ③研究主題 学習指導・生活指導・学校運営等の中から応募者が具体的に研究主題を決めて論文をまとめる。なお、その研究がどのように教育実践に生かされたのかを明記する。
- ④申請方法 「学校研究助成金応募用紙」(当会HPよりダウンロード可)に論文を添えて申請。論文は、研究テーマ・ねらい・経過と内容・まとめの項目に従って簡潔に記述する。
様式は、24字×43行×2段組×A4判用紙6ページ以内(資料含む)、横書きとする。
言語は日本語とし、文字は常用漢字、現代かなづかいを使用する。
CD・DVD・冊子・研究紀要等の提出は不可。メールでの申請は不可。
- ⑤留意点 **※他の研究会や他団体等の事業で発表し、助成を受けた(予定を含む)論文は除く。**
※学習指導案、研究紀要、レポートの写しや感想文は選考対象外。
- ⑥審 査 審査委員会にて審査・決定。
- ⑦そ の 他 研究助成を受けた学校は教弘事業についての説明会を開催する。
特別支援学校は、幼・小・中・高等部に限る。(本年度限りとする)

(2) 個人研究助成の部

- ①対 象 長野県内の国公立学校・教育関係機関に勤務している方、または退職者の個人による教科指導・生徒指導・学校運営・学術研究等の教育研究活動に関する教育実践論文に対し助成金を給付。
ただし、一度助成を受けた者は4年後から再度応募可能とする。今年度は平成26年(2014年)以降助成を受けた者は応募できない。
- ②助成金額 予算の範囲内
- ③研究主題 学校研究に準じて各個人が主題を決定し論文をまとめる。なお、その研究がどのように教育実践に生かされたかを明記する。
- ④申請方法 学校研究の部と同じであるが、申請用紙は個人研究用(当会HPよりダウンロード可)を使用する。
- ⑤留意点 **※他の研究会や他団体等の事業で発表し、助成を受けた(予定を含む)論文は除く。**
※学習指導案、研究紀要、レポートの写しや感想文は選考対象外。
- ⑥審 査 学校研究の部と同じ。

2. 応募期限

2018年1月20日(必着)

3. 留意事項

- ①提出論文は「教弘だより」・当会ホームページで、学校名(個人研究は学校・氏名)・研究テーマを紹介します。
- ②優秀論文は、来年度の日教弘「日教弘教育賞」・東京海上日動火災教育振興基金「教育研究助成金」に推薦し、論文を「信濃毎日新聞」や当会ホームページで公開します。
- ③提出された論文、資料等は返却しません。

2017年度 **教育文化事業** のお知らせ

下記公演の鑑賞希望者を優待する事業です。記載している自己負担金のみで鑑賞ができるチャンスですので、ご興味がある公演へのご応募をお待ちしています。応募方法は下記に記載しています。

公演N **劇団四季 ファミリーミュージカル「ガンバの大冒険」**

- ①日時・会場…2018年3月23日（金） 18：30開演 長野市芸術館（長野市）
- ②料 金……全席指定4,000円（自己負担1,000円）
- ③優待人数……150名

公演O **劇団四季 ファミリーミュージカル「ガンバの大冒険」**

- ①日時・会場…2018年3月24日（土） 15：00開演 佐久市コスモホール（佐久市）
- ②料 金……全席指定4,000円（自己負担1,000円）
- ③優待人数……50名

公演P **劇団四季 ファミリーミュージカル「ガンバの大冒険」**

- ①日時・会場…2018年3月25日（日） 15：00開演 レザンホール（塩尻市）
- ②料 金……全席指定 4,000円（自己負担1,000円）
- ③優待人数……120名

公演Q **宝塚歌劇雪組上田公演**

幕末ロマン「誠の群像」—新選組流亡記— レヴュー・スペクタキュラー「SUPER VOYAGER!」—希望の海へ—
主演：望海風斗 真彩希帆

- ①日時・会場…2018年4月5日（木） 18：00開演 サントミュージゼ（上田市）
- ②料 金……S席指定 7,300円（自己負担3,000円）
- ③優待人数……250名

公演R **ウィーン少年合唱団**

- ①日時・会場…2018年4月30日（月／祝） 16：00開演 八ヶ岳高原音楽堂（南牧村）
- ②料 金……全席指定 13,300円（自己負担5,000円）
- ③優待人数……40名

☆応募方法…必ず**往復ハガキ**にて、ご応募ください。返信用にて抽選結果をご通知します。

（※2017年6月1日から郵便ハガキの料金に変更になりました。往復ハガキは124円です。ご注意ください。料金不足の場合は抽選対象外とし、抽選結果もご通知いたしません。ご了承ください。）

往信用に①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤希望公演名（アルファベットN～Rの記載でも可）⑥勤務学校名 ⑦希望枚数（N～Pは4枚以内・Q・Rは2枚以内）を記載、**返信用宛名面**にご自身の郵便番号・住所・氏名（様）を記入して、教弘事務局まで郵送して下さい。

※応募は、往復ハガキ1枚につき1公演に限ります。

※応募者多数の場合は抽選になります。記入漏れがある場合は、抽選対象外とします。

※消せるボールペンのご使用は避けてください。抽選結果通知を印刷する際、熱により字が消えてしまいます。

※当選後にチケットの枚数変更はできません。

※当選者は、当選ハガキにてご連絡しますので、自己負担金を送金してください。入金確認後、チケットを発送します。チケットの転売は禁止します。転売発覚の際は公演イベーターに該当者の情報を提供いたします。

☆応募締切…**全公演：2018年2月16日（金） 必着**

☆応募先…日本教育公務員弘済会長野支部 〒380-0836 長野市南県町999-18 不動産会館ビル2F

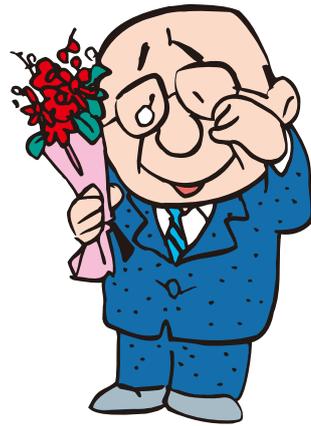
今年度末にご退職される教弘会員の皆様へ

今年度ご退職予定の先生方、長年お疲れさまでした。また、教弘保険にご加入の先生方におかれましては、長い間ご加入いただきありがとうございます。ご退職にあたり、保険料支払方法が給与源泉の方は、口座振替への変更手続きをお願いいたします。お手続きが遅れますと、ご迷惑をおかけする可能性がございますので、在職中にお済ませください。お手続きは共済事業（提携保険事業）提携会社ジブラルタ生命保険(株)の担当LC（ライフプラン・コンサルタント）がご案内します。なお、ご退職後も再任用（フルタイム）でご勤務される方は、引き続き給与源泉にてご継続いただけます。

教弘保険のご継続手続きをしていただいた方（※）には、ご退職記念品として「カタログギフト」をプレゼントいたします。記念品は、ジブラルタ生命保険(株)担当LCが順次お届けします。

長い間お疲れさまでした

退職記念品を贈呈



※月掛金¥3,000以上ご継続される方に限ります。
再任用（フルタイム）者で源泉にて継続される方、早期退職される方も含みます。

表紙写真・学校紹介 軽井沢町立軽井沢中学校

昭和22年に新しい教育制度によって開校され本校は、校舎の老朽化に伴い地域の方々のご協力と熱い期待を担い、新校舎が平成28年3月、そして、校庭が平成29年3月にそれぞれ完成し、新しく恵まれた環境での生活が始まっています。

学校目標の中に「すてきな軽井沢人」を掲げ、「笑顔あふれる挨拶」や「気づき清掃」、「1年間校舎に響き渡る合唱」に力を入れて取り組んでいます。

本校では、全校で月2回資源回収を行うなど、東日本大震災の被災地大槌町への支援活動を行ってきました。本年度で5年目を迎えますが、徐々に支援交流へと変化してきました。毎年、町の事業として行われている現地視察交流に参加したり、生徒会が中心となり大槌学園とSkypeを活用して交流等を行ったりしています。昨年度は、軽井沢内の4小中学校で行っている資源回収の収益金等をもとに、軽井沢彫りで大槌学園の校章を作り、現地視察に参加した生徒が届けてきました。

また、グローバル教育に力を入れており、地元のインターナショナルスクールUWC ISAKと1年間を通じて交流したり、カナダの姉妹都市

ウィスラーの中学生と交流したりしています。今年は、中国合唱団の小中学生との交流会も行われました。

これからも地域の人々とのつながりを大切に、笑顔や挨拶があふれるすてきな軽井沢中学校を創っていきたいと思います。



小中合同資源回収



大槌町へ軽井沢彫り校章を寄贈



姉妹都市ウィスラーの中学生と交流



新校庭での運動会